

季節の風景 3月

桜の標本木



桜の花が満開の頃になると、お花見も楽しみですが、しかし、桜の開花も南北に長い日本では、九州と北海道を比較すると約2カ月近くも違ってきます。そんな桜の開花宣言の基準となるのが「標本木」と呼ばれる桜の木なのです。特に、気象台が桜の開花状況を観測するための指標として定めている桜の木を指すことが多く、気象台から近く、周辺の環境が変わりにくい場所にある木が選ばれていて、全国に96カ所あるとされています。5〜6輪咲いた状態が開花、八割以上開いた場合が満開。現在、開花予想は、民間が精度の高い予想をするようになり、2009年を最後に気象台からの発表は行われていません。なお、桜には八重桜や河津桜など300種類もありますが、標本木として使われている種類は、大半がソメイヨシノ（染井吉野）です。

桜は、夏頃に翌春咲く花のもととなる花芽を形成した後休眠に入り、冬の低温に一定期間さらされると休眠から覚めます（休眠打破）。そうして花芽は休眠打破のあと温度の上昇とともに成長し、開花するのです。ちなみに、高知県の標本木は高知公園の三の丸に、副標本木（第二標本木）は県庁西の桜山にあります。

したたかに水をうちたる夕ざくら

久保田 万太郎

四万十街道ひなまつり

期間中、各地でさまざまな催し物が行われます。

- 日時 / 2月8日～4月12日
- 場所 / 四万十川流域各地域
愛媛県松野町、鬼北町

【お問い合わせ先】 四万十町観光協会 ☎29-6004

大正浪漫ひなまつり

800体のひな人形集結!!ステージイベント「フェアリーピット・ジャズオーケストラ」など演奏有り。

- 日時 / 3月21日 午前10時～午後3時
- 場所 / コンベンションホールきらら大正

【お問い合わせ先】
四万十町商工会大正支所 ☎27-0238

志和エリアひなまつりイベント

いろいろな場所で展示しています。

- 日時 / 3月22日～4月5日

第4回 志あ和せマーケットと ハンドメイド教室

志和のひなまつりイベントに合わせた体験教室。志和物産品販売。

- 日時 / 4月5日 午前10時～午後3時
- 場所 / 志和コミュニティセンター

【お問い合わせ先】 喫茶なごみ ☎24-1070

ひな祭りバイキング

ひな祭りに合わせ中津川の婦人部が料理を提供。

- 日時 / 4月5日 午前11時～午後2時
- 場所 / 大正中津川集落活動センターこだま

【お問い合わせ先】 こだま事務局(西本) ☎090-9700-7856

★新型コロナウイルス感染拡大予防のため、変更になる場合があります。

まちの話題 topics&report

瑞宝双光章 受賞

牧野利恵子さんは、平成3年10月から法務省より「保護司」の委嘱を受け、民間ボランティアとして現在までの28年間、人の立ち直り・社会復帰を支える活動に尽力された功績が称えられ、今回瑞宝双光章を受賞されました。

「保護司」との出会いは、社会福祉の勤務をしていた時の上司である保護司会の会長から推薦されたことがきっかけでした。

最初はどのように接すればよいか不安に感じながら活動していましたが、徐々に自分を頼ってくれ、前向きになってくれる姿を見ると非常にやりがいを感じたそうです。

人と人をつなぐことが好きな牧野さんは、精神保健福祉ボランティア連絡協議会の事務局長や婚活サポーターなどさまざまな場面でご活躍されています。

このような活動ができるのも家族の理解や周りの方々の応援があるからであり、今後も多くのボランティア活動に参加し、あたたかい町にしていきたいと話されていました。



牧野 利恵子さん
(香月が丘)

高知県代表選手に選ばれました



- | | | | |
|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|
| 7 宮脇 大空
2年(大正中) | 16 宮本 羽雲
1年(窪川中) | 10 岡本 恵弥
2年(大正中) | 17 中原 碧斗
2年(大正中) |
| 23 山本 睦貴
2年(窪川中) | 24 渡邊 蓮
2年(窪川中) | 6 中嶋 莉玖
2年(窪川中) | 5 長山 莉央
2年(窪川中) |
- 女子選抜

第16回都道府県対抗全日本中学生ソフトボール大会に、四万十町から男子7人、女子1人が高知県代表として出場します。選手たちは代表選手として自覚を持ち、チームに貢献できるように一生懸命練習に励んでいます。どうぞ皆さんの応援をよろしくお願いいたします。

大会日程

3月28日～30日
男子：岡山県 女子：静岡県

今月の 人オキリ



たかせ
高瀬 あおいさん
(大井川)

先月号の田中さんと同じく、十和地区のしいたけ産業の振興を担当している地域おこし協力隊員の高瀬あおいさんを紹介します。

あおいさんは和歌山市出身の25歳。実はさまざまな逆境を乗り越えてきた若者です。和歌山市内の小・中学校に通っていた頃は、成績は優秀で、生徒会活動もしっかりこなす、いわゆる優等生でも、それには理由がありました。小学校低学年の頃からお母さんと二人の生活。経済状況も常に苦しく「あおい、負けたらあかんで」と励まされながらがんばってきました。ご本人も「将来の社会的地位を上げなければならぬ」と思っていたそうです。

しかし、中学卒業を前にして、そんな自分に疑問を感じ始めます。「私、こんな生き方でいいんだらうか?」。「好きでもない勉強に追い立てられて優等生を演じていた自分から解放されなかった。高校は、私のことを知らない人たちがばかりのところに入学しようと思つて、和歌山県内の郡部の高校を受験しました。優等生だった自分のことを知らない人たちの中の高校生活は、とても新鮮で楽しい日々でした。それまでできなかったこともできました。ところが、そんな生活も「なんか、これはこれで違う」と思うようになり、1年生のクリスマスの日、高校を辞めました。そして後ろめたい気持ちから自宅に引きこもるようになったそうです。

引きこもりは4年間続きましたが、お母さんの助けもあって、あおいさんは近くのスーパーマーケットで働くようになりました。



▲たくさんの人に
助けられました!